

# 令和4年度 施策評価表(令和3年度決算評価)

施策名：地域コミュニティ・学び  
 施策番号： 01 - 01

## 1 基本情報

施策名	01 地域コミュニティ・学び	展開方向	01 地域コミュニティの醸成・生涯学習の推進
担当当局	総合政策局		

## 2 目標指標

指標名	方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値				
					H29	H30	R1	R2	R3
A 「生涯学習活動が地域活動につながった」と感じている市民の割合	↑	7.1	%	13.1	—	—	—	—	7.1
B 「地域の活動に参加している」と答えた市民の割合	↑	15.6	%	30.0	19.9	17.6	19.3	15.3	15.6
C 「講座などに参加して学んだことを地域や社会のために生かしたい」と考えている参加者の割合	↑	78.1	%	90.0	—	—	—	—	78.1
D 地域の小中学校で行事やボランティア等に参加したことがある人の割合	↑	24.7	%	30.0	25.1	23.6	25.5	20.4	24.7
E 市民1人あたりの貸出冊数	↑	3.15	冊	5.87	3.46	3.23	3.23	2.78	3.15

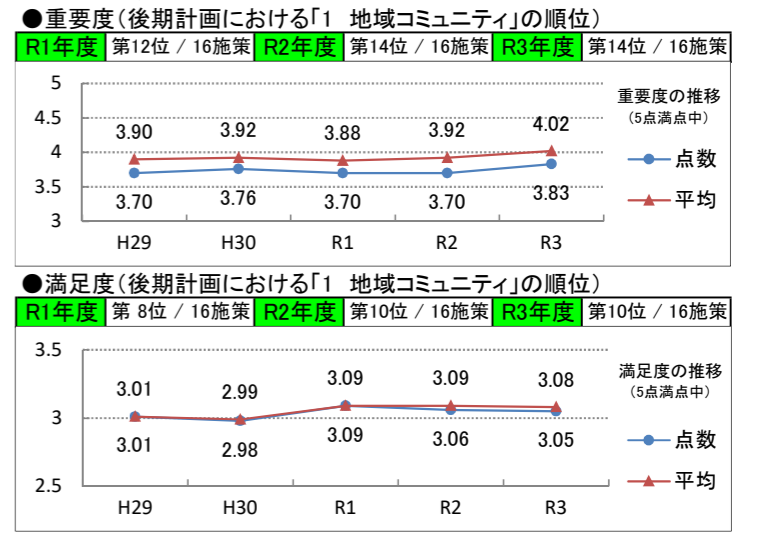
## 5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和3年度実施内容を記載)	
<b>【多様な主体による地域発意の取組や地域コミュニティを支援する仕組みづくり】</b>	
(目的) 多様な主体同士が情報共有や相互理解を深めるような場づくりを進め、地域の課題解決や魅力向上の取組が地域発意で行える地域社会づくりを目指す。	
(成果) ①地域担当職員は、地域との関係性を深めるとともに、多様な活動者等がつながる場づくりに引き続き取り組んでいる。この取組により園田では、消防団の発意による幅広い世代が参加する防災訓練の開催や、立花では、地域のプラットフォームをきっかけに、入りやすい庁舎となるよう入り口等にペイントが行われるなど、地域発意の取組が形になった事例が増えてきている。(目標指標B)	
②地域情報を分野やエリアごとに検索できる地域情報共有サイト(あましえあ)を活用し、地域活動に参加する人や関係部局等と情報共有を進めるとともに、市民サービスの向上を図るため、同サイトを8月から一般公開した。	
③尼崎市社会福祉協議会(市社協)との連携が不可欠な重層的支援推進事業が令和4年度から始まるにあたり、事業における地域振興センターの役割について、市社協をはじめとする関係機関等との調整も踏まえ、検討を行った。	
(課題) ①平成31年4月からの新たな地域振興体制に向けて策定した「自治のまちづくりに向けた地域振興体制の再構築(取組方針)」で掲げた内容を踏まえ、各種制度や仕組みについて実績を振り返り、検証の上、改善を進めていく必要がある。	
②「あましえあ」において、地域や福祉の資源情報は一定数登録された状況であるが、改めて導入の目的を関係部局において共有し登録案件の充実を図りながら、今後の活用について具体的な検討を進める必要がある。	
③地域活動に参加する人の高齢化・固定化、自治会をはじめとするコミュニティが存在していない地域があることなどが引き続き課題となっていることから、市社協とも連携し地域での繋がり的重要性をより多くの人々が認識されるよう取組を進めていく必要がある。	
④重層的支援推進事業については、地域振興センターと市社協が情報共有を図りながら、相談者への寄り添いや地域づくりに一体となって取り組む必要がある。	
<b>【まちないたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】</b>	
(目的) 学びたい思い、取り組んでみたい思いを支援し、ひと咲きプラザや生涯学習プラザをはじめ、まちないたる所で学びや活動が創出されることを目指していく。	
(成果) ④各地域において、地域の方との意見交換等から地域課題や潜在する関心を捉え、空き地・空き家対策、防災、ユースワークに関する勉強会やボランティア養成講座などを実施できた。また、ユース交流センターサテライト事業などひと咲きプラザのサテライト的な機能が各地区に加わり既存の機能と有機的なつながりを模索しながら取組を進めている。	
⑤防災講座・訓練から要支援者リストの受取、ペット同行避難訓練の講座からベトナム同行避難訓練の計画への発展といった防災を通じた参画意欲の高まりなど学びと活動が循環する事例が増え始めている。また、新立花南生涯学習プラザでのオープニングイベントの準備を、地域の多様な人・団体とともに考え、作り上げていくなど、場所や施設を通じた自治の意識が育まれ始めている。(目標指標A・B・C)	
⑥小田南公園のタイガース誘致を契機に、改めて公園の意味を学びたい方の声を受け、みんなの尼崎大学(尼大)としてシンポジウムに協力した。様々な意見のある問題についてフラットな関係で学ぶという尼大の仕組みの可能性を引き出すことができた。	
(課題) ④⑤生涯学習プラザが生涯・学習！と自治のまちづくりを支える拠点であることが市民と十分共有できていない。また、生涯・学習！の理念を市民と考える機会が必要である。加えて、市職員のいない生涯学習プラザでの学びと活動を強化する必要がある。	
⑤⑥みんなの相談室など尼大での取組が各地域に広がる中、ひと咲きプラザに集積することも・青少年の学びを支援する機能と、12の生涯学習プラザでの学びと活動の循環を支援する機能とのつながりを強化する必要がある。	
<b>【地域と学校の連携・協働の推進】</b>	
(目的) 地域の方々の実験や学習の成果を活かすとともに、学校を核とした活動を通じて地域のつながり、教育力の向上を図る。	
(成果) ⑦地域学校協働活動を通じて、地域の方がやりがいを感じたり、コーディネーターや地域担当職員で情報共有が図られたほか、児童発意の地域のクリーン作戦を地域振興センター、コーディネーターがサポートして行うなどの事例があった。(目標指標D)	
(課題) ⑦小学校における地域学校協働活動については、各学校の状況を踏まえ、より一層の活動の浸透を図るため、効果や魅力に関し、学校、地域において理解者を増やす必要がある。また、中学校にも地域学校協働活動を広げていく必要がある。	
<b>【図書を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書サービス網の充実】</b>	
(目的) 資料や情報の提供をはじめとした「知の拠点」として、市民が生涯にわたり学習と交流を行える機会を創出し、豊かな暮らしを実現するための図書サービスの充実を図る。	
(成果) ⑧講演、講座等の行事を実施し、市民の学習機会の提供と利用促進に向けた取組を行うほか、「おすすめする100冊の本」を全児童に配布するなど、学校との連携を図った。また、電子書籍導入やSNSでの発信強化を図るなど、市民の読書活動を推進した。(目標指標E)	
⑨「尼崎市立図書館基本的運営方針」をもとに、社会情勢や図書サービスへのニーズを踏まえ、事業計画の検討を行った。	
(課題) ⑧図書に親しむ機会を創出し、利用者ニーズの把握、情報発信の強化や利用しやすい環境の整備に取り組む必要がある。	
⑨事業を実施後は、点検・評価を行い、地域の情報・交流拠点としての役割を果たすため、より効果的な図書サービスの充実を目指し、生涯学習プラザとも連携した取組を進める必要がある。	

## 3 主要事業一覧

令和4年度 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	
令和3年度 主要事業名	
1	地域資源情報公開システム事業(地域情報共有サイト(あましえあ))
2	図書等購入事業(電子書籍購入事業)
3	学びと活動の情報一元化による効果的な運用・発信
4	
5	
令和2年度 主要事業名	
1	生涯学習プラザ等整備事業(大庄南生涯学習プラザ整備事業)
2	特定非営利活動促進事業
3	
4	
5	

## 4 市民意識調査(市民評価)



## 令和4年度の取組

**【多様な主体による地域発意の取組や地域コミュニティを支援する仕組みづくり】**

①地域振興を進める上で必要な各種支援制度や予算について、その効果的なあり方を検討し、令和5年度予算に向けて見直しを行う。

①特定非営利活動促進事業において、クラウドファンディング等の新たな資金調達手段を提供し、NPO法人の安定的な活動を支援する。

②「あましえあ」の運用では、引き続き市民や地域活動の担い手が必要とする地域情報の掲載に努め共有を図るとともに、登録された情報をもとに地域ごとの分析資料を作成する。

③市社協との人事交流を活かし、一層の連携強化を図る中で地域活動支援や重層的支援推進事業を進めていく。

③重層的支援推進事業に取り組むにあたっては、市社協と互いに認識や情報の共有を図り、連携した運用を進める。

**【まちないたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】**

④⑤シチズンシップを重視した生涯・学習！の理念をどのように市民と共有していくかについて、生涯学習審議会などでの議論を進めていく。

④⑤アウトリーチの強化や企画プロセスから参画できるような共につくっていく講座等を増やすなど、職員が多様な人と関わりを持てる機会を増やしていく。また、市民大学等の聴講メインの講座においても、交流の機会を増やし、参加者同士の一体感を醸成する。

⑤⑥楽しみながらまちに関心をもつ人の入口という尼大の特徴を活かし、ひと咲きプラザと生涯学習プラザに関わる取組などをつなぐ結節機能を高めていく。

**【地域と学校の連携・協働の推進】**

⑦地域住民や教員等を講師とする学校管理職及び教員研修を実施するとともに、活動の参加者の幅を広げるため、継続して情報発信するほか、地域担当職員との連携をさらに進める。中学校においては、小学校のノウハウを活かし、学校現場の意見を聴きながら、コーディネーターの選定等、令和5年度からの地域学校協働活動の実施に向けた取組を進める。

**【図書を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書サービス網の充実】**

⑧電子書籍では、コンテンツ数増や市民が選びやすいよう特集を充実させ、貸出タイトル増加を目指す。また、学校と連携を行い、子どもの読書活動推進を図る。

⑨生涯学習プラザと連携を密にし、地域での読書推進活動やニーズに応じた図書の品揃えなど、図書サービスの充実を図る。

## 主要事業の提案につながる項目

**【多様な主体による地域発意の取組や地域コミュニティを支援する仕組みづくり】**

①地域コミュニティの仕組みづくりを推進する、より効果的な予算のあり方等について検討する。

## 6 評価結果

評価と取組方針
・各施策の取組が地域で広く展開され成果を発揮するには、施策01が各施策の基盤であることを改めて認識していく必要がある。
・次期総合計画がスタートする次年度に向けて、展開方向間の連携をより意識し、生涯学習審議会等の役割と体制を再整理していく必要がある。
・「自治のまちづくりに向けた地域振興体制の再構築(取組方針)」と「生涯・学習！推進指針」については、「生涯・学習！」の基本理念の一層の浸透、地域発意の取組に予算を柔軟に配分する仕組み、地域ごとのプラットフォーム機能のあり方に関して検証を行う。また、生涯学習プラザについては、図書の活用や市職員が常駐しない館での事業展開のあり方など、身近な学びの拠点としての必要な体制等についても検証を行う。
・地域担当職員がまちづくりに関わる多様な主体といかにつながっているかの洗い出しを行うとともに、市社協との連携を強化する中で、「あましえあ」で共有すべき情報の整理や運用等を検討していく。
・学びの場においては、意見が対立する問題についてもフラットな関係で学び、互いの立場や考え方を理解することが重要であり、こうしたチャレンジを積み重ねて、自治のまちづくりを推進していく。
・みんなの尼崎大学においては、市民からのアプローチを受け止め、職員とともに学べる仕組みについて充実強化を図る。
・市政広報活動を実施する福祉協会に対して補助を行う「地域広報活動推進補助金」については、各地域の実態を確認し、補助金のあり方について検討を行う。

# 令和4年度 施策評価表(令和3年度決算評価)

施策名: 地域コミュニティ・学び  
 施策番号: 01 - 02

## 1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	02	まちの魅力を高める文化芸術活動の推進
主担当局	総合政策局				

## 2 目標指標

指標名	方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)		実績値				
						H29	H30	R1	R2	R3
A 尼崎市文化振興財団及び本市が実施した文化芸術事業への参加者数	↑	133,807	人	—	—	304,420	287,010	292,057	66,577	133,807
B 尼崎市総合文化センター稼働率	↑	44.9	%	—	—	45.0	42.5	38.4	24.0	44.9
C 若者支援を対象にした文化芸術事業への参加者数	→	4,974	人	5,250	—	3,583	4,369	4,896	4,123	4,974
D 文化芸術のアウトリーチ事業の回数	↑	58	回	100	—	43	50	53	42	58
E										

## 5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和3年度実施内容を記載)

**【文化振興の基盤づくり】**  
**(目的)**文化施策の指針である「尼崎市文化ビジョン」に基づき取組を進めるとともに、文化振興の中核である尼崎市総合文化センターとその運営を担う(公財)尼崎市文化振興財団と連携して文化芸術の学びや活動を推進する。  
**(成果)**①令和2年度に行った文化事業に関する評価では、情報発信方法とその内容の検討、市内の様々な施設へのアウトリーチの必要性を課題として挙げており、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が少ない展示を中心に、アウトリーチに取り組んだ。  
 ②総合文化センターの耐震化等について、整備内容や手法等の検討を進めた。  
**(課題)**①現ビジョンの取組期間が令和4年度で終了するため、そのビジョンの取組の柱や推進体制等について総括するとともに、次期総合計画における施策1「地域コミュニティ・学び」への位置づけの転換や、社会状況の変化等への対応を盛り込んだ改定を行う必要がある。  
 ②音楽ホールの耐震化や大規模な減築等の複数の特殊要因が重なるため、施工者のノウハウを活用し合理的な設計を行う必要がある。

**【若い人の夢とチャレンジの応援】**  
**(目的)**若い人の夢を後押し、飛躍のきっかけとなる機会を提供することで、本市が若い人の夢とチャレンジを応援するまちであることを発信する。また、市民に芸術や地域文化を発信し、文化の担い手づくりを進めていく。  
**(成果)**③若手アーティストによる先駆的で魅力ある現代美術作品を顕彰する白髪一雄現代美術賞の第1回目の募集・選考を行い、全国47名の応募者から大賞を1名を決定した。全国規模の活動を展開しようとする本市ゆかりの若手芸術家を顕彰する文化未来奨励賞では、第4回で落語家を表彰するとともに、第3回受賞の音楽家による子どものための作曲のワークショップ・コンサートを行い151名の参加があった。これらの顕彰により、若手アーティストの活躍に向けた支援ができた。(目標指標C)  
 ④あまらぶアートラボ事業では、展示会を5回、オンライン配信を含むトークイベントを3回、音楽イベントを1回開催した。尼子騷兵衛展に併せた乱太郎のグッズ展の開催や、あまがさきアート・ストロールに併せた特別展示の開催など、阪神尼崎駅周辺一帯と相乗効果を発揮し、アートを通じたにぎわいを生み出す企画とすることができた。(目標指標C)  
 ⑤尼崎落研選手権は、近畿地方外の8大学を含む12大学の参加があり、若者のチャレンジを応援するまちであることを発信が定着してきている。(目標指標C)  
**(課題)**③白髪一雄現代美術賞については、賞の認知度や価値の向上のため、本市の取組を全国に向けて発信していく必要がある。  
 ④⑤引き続き情報発信方法を工夫していくとともに、コロナ禍の影響が残る中、より多くの方が参加できるような取組を進める必要がある。

**【はぐくまれてきた歴史・伝統・文化の継承・発展】**  
**(目的)**過去から受け継がれてきた伝統芸能や祭り、本市ゆかりの文化人等様々な地域資源を生かし、地域の文化として継承・発展させることで、まちへの愛着やまちの魅力向上につなげていく。  
**(成果)**⑥白髪一雄発信プロジェクトは、令和3年度はコロナ禍で各地の美術館が運営に苦慮する中、開催に至らなかったものの、令和4年度に向けた調整を行うことができた。(目標指標A)  
 ⑦新型コロナウイルス感染症の影響により延期していた尼子騷兵衛展を、尼子氏が関わってきた方々の協力を得ながら開催、まちの魅力向上に寄与するとともに、全国から5,854人の来場があるなど、まちのにぎわいづくりに貢献した。(目標指標A)  
 ⑧富松薪能、尼崎薪能、大近松祭等は開催に向けて調整を行ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止や規模の縮小を余儀なくされた。  
**(課題)**⑥令和6年度の白髪一雄生誕100年に向けて、引き続き白髪作品を展示できる美術館を探す必要がある。  
 ⑦ポストコロナを見据え、市内外の多くの方々に、本市のさまざまな文化や地域資源に触れていただく機会を創出する必要がある。  
 ⑧地域で長年継承されてきた伝統的な行事や祭りがコロナ禍において縮小傾向にあるため、継承が途絶えないよう支援する必要がある。

**【市民の芸術体験を支える取組の推進】**  
**(目的)**市民が芸術に触れる機会を作るとともに、市民の文化芸術活動を推進することで、文化を担う市民を広げ、共感し合う関係を生みだし、学びや活動を支える環境づくりにつなげていく。  
**(成果)**⑨文化振興財団による地域へのアウトリーチ事業では、小学校や幼稚園のほか、各地区生涯学習プラザを活用して実施するとともに、アート@シビックロビーでは、本市が収蔵しているアート作品を活用し市内10箇所まで29作品の巡回展示を行い、市民等が身近にアート作品に触れられる機会を提供した。(目標指標A・D)  
 ⑩新型コロナウイルス感染症の影響により縮小していた総合文化センターでの各種公演や展示会の参加者数は復調傾向であり、また、動画配信コンテンツも拡大させることで、市民の文化芸術体験や活動を支えた。ティーンズサポートチケットには、12公演69人の応募者があり、若者が本物の芸術に触れる機会の一助となった。(目標指標A・B・C)  
**(課題)**⑨生涯学習プラザでのアウトリーチ事業をさらに展開していくとともに、アート@シビックロビーではより多くの市民等が興味を持ち、鑑賞いただけるよう展示内容を工夫していく必要がある。  
 ⑩良質な芸術を市民に提供すべく、事業のあり方を検証するとともに、動画を活用した情報発信やさらなる事業展開について検討する必要がある。

## 3 主要事業一覧

令和4年度 主要事業名	
1	総合文化センター耐震化事業
2	
3	
4	
5	
令和3年度 主要事業名	
1	尼子騷兵衛作品等資料収集・調査・活用事業
2	若者の夢創造・発信事業(白髪一雄現代美術賞の創設)
3	まちの魅力発信事業(アート@シビックロビー事業)
4	
5	
令和2年度 主要事業名	
1	尼子騷兵衛作品等資料収集・調査・活用事業
2	
3	
4	
5	

## 令和4年度の取組

**【文化振興の基盤づくり】**  
 ①②市民意識調査の実施や文化ビジョン会議での検討を行い、ビジョンの改定を行うと同時に、事業の再構築も検討していく。また、現ビジョン推進の中核と位置づけられている文化振興財団については、建物としての総合文化センターを市へ移管することを機に、そのあり方や市との役割分担について、改めて検討していく。  
 ②耐震化に向けた基本設計に着手し、整備プランや工法、施設の運営・維持管理手法等の詳細検討を進めていく。

**【若い人の夢とチャレンジの応援】**  
 ③白髪一雄現代美術賞受賞者による展示会をサポートすることにより、本市の現代美術への取組の認知度を高め、賞の価値向上に努める。  
 ④⑤新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら事業実施をしていくとともに、事前周知の充実や、より多くの方が楽しめるようにYouTube等のオンライン配信も組み合わせて行う。

**【はぐくまれてきた歴史・伝統・文化の継承・発展】**  
 ⑥⑦⑧白髪一雄発信プロジェクトとして宮崎県立美術館と共催で展示会を開催する。生誕100年となる令和6年度の企画準備とともに、令和5年度以降に展示会の開催意向のある美術館を募るなど、取組を進める。また、薪能を再開するほか、令和5年度の近松門左衛門没後300年に向けた調整を進める。

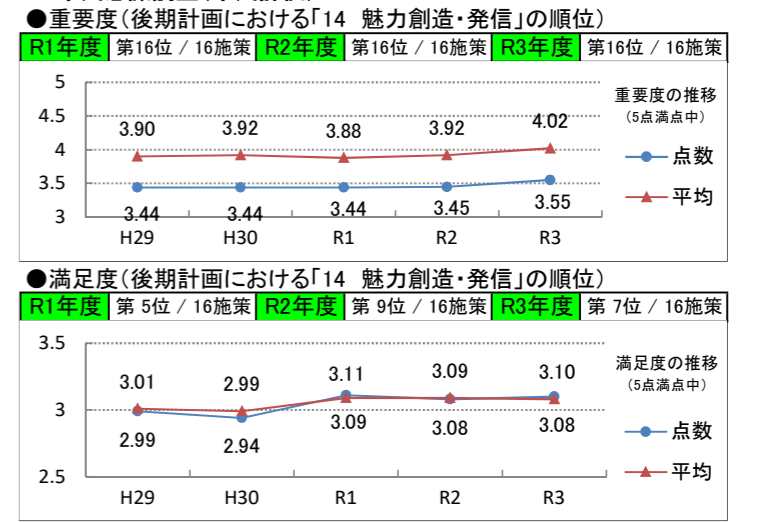
**【市民の芸術体験を支える取組の推進】**  
 ⑨アウトリーチ事業やA-LAB GOなど、市民が芸術体験を身近な場でできるよう、事業の地域展開を進めていく。  
 ⑩文化振興財団により総合文化センター大ホールの開館40周年を記念するキャンペーンや様々なアーティストによるコンサート、舞台公演等を実施する。また、動画を活用した文化事業の新たな展開を検討する。

## 主要事業の提案につながる項目

**【はぐくまれてきた歴史・伝統・文化の継承・発展】**  
 ⑥⑧今後、様々な周年事業が予定されており、これらについて、節目にふさわしい内容とすべく、内容の充実についての検討を行う。

**【市民の芸術体験を支える取組の推進】**  
 ⑩文化振興財団において運営してきたエフエムあまがさきが令和4年度末で廃局になるが、これまでの運営で培ったノウハウや人的ネットワークを活用する中で、市とともに文化事業を基軸にした動画による事業展開や情報発信について検討する。

## 4 市民意識調査(市民評価)



## 6 評価結果

### 評価と取組方針

・文化振興財団による地域へのアウトリーチ事業、本市所蔵作品を市内各所で巡回展示するアート@シビックロビー、動画配信の拡充など、コロナ禍においても市民が地域で芸術に触れる機会を提供することができた。

・今後は、総合文化センターの耐震化等の施設改修による休館を見据え、地域を拠点としたアウトリーチ事業のさらなる推進や好事例の他地域への展開を進める。

・総合文化センターの市移管に伴う指定管理者制度の導入を見据え、市及び文化振興財団の役割分担についても整理し、直営・委託・補助といった文化事業の実施手法を検討する。

# 令和4年度 施策評価表(令和3年度決算評価)

施策名: 地域コミュニティ・学び  
 施策番号: 01 - 03

## 1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	03	歴史遺産の継承と学びの充実
主担当局	教育委員会				

## 2 目標指標

指標名	方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)		実績値				
						H29	H30	R1	R2	R3
A 歴史や文化財等に関するボランティア活動参加延べ人数	↑	881	人	1,762		3,187	2,566	1,791	616	881
B 歴史博物館への来館者数	↑	45,171	人	50,000	-	-	-	-	24,579	45,171
C 歴史博物館・田能資料館主催事業の参加者数	↑	1,023	人	2,046		2,346	2,231	1,883	1,045	1,023
D あまがさきアーカイブズ(地域研究史料室)相談利用(レファレンス)人数	↑	2,293	人	2,345		2,345	2,330	1,907	1,623	2,293
E 学校教育と連携した事業の実施回数	↑	45	回	90		60	55	53	50	45

※歴史博物館の開館(令和2年10月)以前の数値については、前身である文化財収蔵庫等での実績値

## 5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和3年度実施内容を記載)

**【魅力ある歴史博物館の運営】**  
**(目的)**歴史博物館において尼崎の歴史資料や文化財を積極的に展示・公開し、市民や他都市からの来訪者の尼崎の歴史・文化財に対する関心を高めるとともに、シビックプライドの醸成や観光地域づくりに貢献する。また、市民ボランティアの養成と参画促進に取り組むとともに市民グループとの協働も図り、市民と共に歩む博物館を創出していく。  
**(成果)**①歴史博物館では、豊かな尼崎の歴史をわかりやすく伝える常設展示や特別展及び企画展の開催、兵庫県立歴史博物館の巡回展誘致などに取り組み、令和3年度に来館者は45,171人となった。また、本市の公文書館機能を担うあまがさきアーカイブズの相談件数は2,293件となった。さらに常設展示や施設等を紹介する音声ガイドシステムの導入、動画の作成・配信に取り組んだ。(目標指標B・D)  
 ②ボランティア活動については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により制限されたが、感染症対策に意を用いながら活動を継続した。(目標指標A)  
**(課題)**①尼崎の歴史を学ぶ機会の提供や情報発信機能を高め、市内外からの来館促進やピーター獲得に努めるため、潤沢な収蔵資料を活かしつつ、常設展示をはじめとした展示事業のさらなる充実と魅力向上を図るとともに、近隣施設等との連携、PRが必要である。  
 ②歴史博物館の事業運営は市民ボランティア活動に支えられており、引き続き新たなボランティアの養成や活動のさらなる活性化を図る必要がある。

**【歴史遺産の保存と活用】**  
**(目的)**文化財や歴史資料等の収集・調査・整理を進め、地域資産として有効活用できるように保存・公開することにより、地域の歴史を学ぶ環境づくりを進める。また、歴史遺産を保存し活かす活動に取り組む市民グループ等との連携・協力を進め、地域の歴史遺産の保存・活用を図る。  
**(成果)**③令和3年度は江戸期に描かれた尼崎城下町の絵図2点を新たに市指定文化財に指定し、公共事業に伴う遺跡の発掘調査を実施するなど文化財保護に取り組んだ。講座・体験学習会といった事業については社会情勢を鑑み、感染症対策を行いながら実施した。(目標指標C)  
**(課題)**③市民の貴重な財産である文化財を保護し後世に伝え、活用していく取組を着実に推進する必要がある。こうしたなか、地域とともに保存を実現した富松城跡やユニチカ記念館などの地域の歴史遺産の保存活用に向け所有者を含めた関係機関等との連携や協力が求められている。

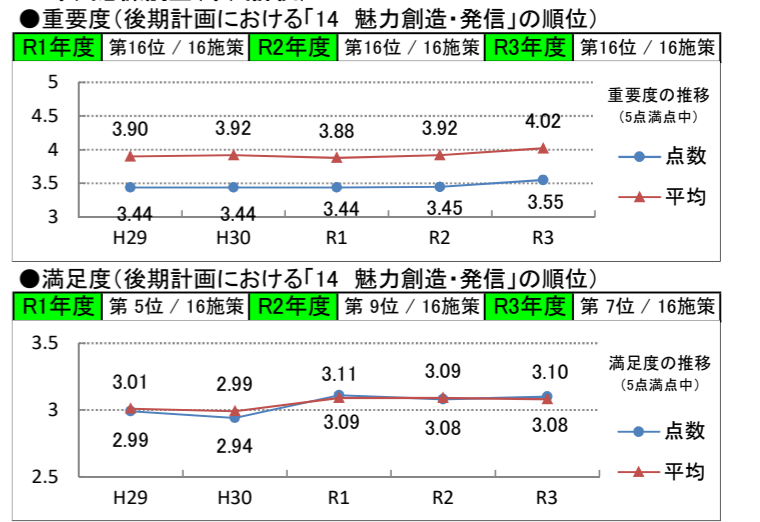
**【地域の歴史を学ぶ機会の充実】**  
**(目的)**市民や子どもたちが尼崎の歴史・文化財に触れる学習機会や場の充実を図り、身近な地域の歴史・文化財に対する関心を高める。  
**(成果)**④市民参加事業の休止や規模縮小が余儀なくされるなか、歴史博物館の開館にあわせた記念講演会や市民向けの歴史講座、体験型ワークショップなど尼崎の歴史に触れる事業を実施した。また、学校教育と連携した企画展「むかしのくらし・むかしの小学校」を開催した。田能資料館では来館できない学校園とオンラインでの授業の試行に取り組んだ。(目標指標C・E)  
**(課題)**④市民や子どもたちが歴史に触れ、学ぶ機会の提供について、より効果的で魅力ある内容へと充実を図るとともに、歴史博物館への来館促進に努めていく必要がある。

**【学びを支える機能の充実と連携促進】**  
**(目的)**公文書館機能を備えた歴史博物館として、市の諸活動や歴史的事実の記録である公文書等を将来に伝え、その利用に供するとともに、歴史博物館と図書館等との有機的な連携を図ることで情報資源の収集・蓄積・提供していく機能を高め、市民がより使いやすく親しみやすい施設の実現に努め、市民の学びを支える。  
**(成果)**⑤公文書管理等条例の施行に向けて歴史的公文書の保存・利用の仕組みづくりに取り組んだ。  
 ⑥『「尼崎市史」を読む会」を中央図書館・北図書館で実施し、市民の歴史を学ぶ場を提供するほか、歴史博物館・中央図書館・尼崎城の3施設連携イベント等による周遊促進に取り組んだ。(目標指標C・E)  
**(課題)**⑤歴史的公文書の市民利用制度の着実な運用が必要である。特に新型コロナウイルス感染症等についての記録を収集保存し後世に伝えていく必要がある。  
 ⑥歴史博物館、中央図書館等の連携は個別・単発的な取組に留まっており、総合的・長期的視点からの有機的な連携を図り、市民の利便性向上や学びの充実につなげていく必要がある。

## 3 主要事業一覧

令和4年度 主要事業名	
1	歴史的公文書等管理・公開事業
2	
3	
4	
5	
令和3年度 主要事業名	
1	歴史博物館展示事業(歴史博物館特別展事業)
2	
3	
4	
5	
令和2年度 主要事業名	
1	城内まちづくり整備事業(新博物館開館事業)
2	
3	
4	
5	

## 4 市民意識調査(市民評価)



## 6 評価結果

評価と取組方針

・歴史博物館については、新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組みながら特別展や企画展を開催する中で、目標値には達しなかったものの4万人を超える多くの来館者を迎えることができた。引き続き、未公開の収蔵資料を活かした魅力ある展示会の実施などにより、来館者数の増加を目指していく。

・子どもたちの尼崎の歴史の学びにあたっては、これまで取り組んできた環境教育の経験を活かしつつ、「地理」や「文化」などとの関係性にも意識して学べるよう取組を進めていく。また、歴史や文化財に触れる学習がより深い学びにつながるよう、学校教育と連携した取組を積極的に実施した上で、成果と課題を検証していく。

・文化財保存活用地域計画については、保存と活用の両面から狙いを明確にするとともに、学校や図書館、その他文化施設等との連携も含んだ計画とする。また、文化財の保存と活用に係る取組の見える化と効果的な進捗管理が図れる計画となるよう意識して策定していく。

・歴史博物館と図書館との連携にあたっては、それぞれの強みを活かしながら、市民の利便性向上や学びの充実に向けて、デジタルアーカイブの推進など効果的な取組を進める。

## 主要事業の提案につながる項目

**【学びを支える機能の充実と連携促進】**  
 ⑤⑥MLA連携に向けた基盤づくりの一環として、図書資料のデジタル化、歴史的公文書をはじめとした史料を閲覧できるデジタルアーカイブの構築など、市民の利便性のさらなる向上を目指した取組を進めていく。また、新型コロナウイルス感染症への対策から得た教訓について広く共有・発信に努めていく。

# 令和4年度 施策評価表(令和3年度決算評価)

施策名: 地域コミュニティ・学び  
 施策番号: 01 - 04

## 1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	04	スポーツに親しむ機会の充実
主担当局	教育委員会				

## 2 目標指標

指標名	方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値				
					H29	H30	R1	R2	R3
A 健康を意識した運動やスポーツを行っている市民の割合	↑	45.0	%	49.0	47.0	45.2	45.8	45.6	45.0
B 生涯スポーツ・レクリエーション事業参加者数	↑	5,202	人	11,000	9,973	9,330	10,862	4,144	5,202
C 学校開放利用者数	↑	537,279	人	690,000	748,986	736,569	689,939	561,705	537,279
D 地区体育館等利用者数	↑	345,060	人	364,000	402,173	388,179	363,379	266,686	345,060
E 誘致大会観戦者及び市民スポーツ大会参加者数	↑	31,928	人	69,000	63,960	69,407	68,728	27,011	31,928

## 5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和3年度実施内容を記載)	
<b>【市民のスポーツ実施率の向上に向けた取組の推進】</b>	<p>(目的) 様々なスポーツ施策を通じて、健康を意識した運動やスポーツを行っている市民の割合の向上を図る。</p> <p>(成果) ①健康を意識した運動やスポーツを行っている市民の割合は45.0%となり、令和2年度と比べて0.6ポイント低下した。外出の自粛が緩和され、スポーツ施設をほぼ通常どおりに運営できたものの、新型コロナウイルスの影響前の水準には戻らなかった。東京オリンピック関連事業では、新型コロナウイルスの影響により、一部事業内容を変更したが、事前合宿チームの一般観覧を行うなど、市民にトップレベルのスポーツに触れ親しむ機会を提供した。(目標指標A)</p> <p>(課題) ①市民の関心が高い東京オリンピックに関連した事業を実施したことで、市民のスポーツや運動に対する機運醸成を図ることができたが、ワールドマスターズゲームズ2021関西が再延期されるなど新型コロナウイルス感染症の影響は依然として続いており、オリンピックにより高まったスポーツへの機運を継続するよう、スポーツや運動への意識付けや環境を整える必要がある。</p>
<b>【ライフステージや体力等に応じた生涯スポーツの推進】</b>	<p>(目的) 市民が気軽にスポーツやレクリエーション活動に参加できる機会と場の提供や、市立学校のスポーツ施設を開放することにより、市民スポーツの振興、市民の健康増進やコミュニティの形成促進を図る。</p> <p>(成果) ②令和2年度に引き続き、さわやか地域スポーツ活動が約1ヶ月間中止となったが、新たなスポーツ種目を取り入れることにより、市民の健康増進を図った。緊急事態宣言等で中止した事業があるものの、令和2年度と比べると参加者数は1,058人増加した。(目標指標B)</p> <p>③学校開放については、令和2年度に比べ中止日数は少なかったものの、時間短縮を行った日数が倍増したことにより、利用者が24,426人減少した。(目標指標C)</p> <p>④スポーツ振興事業団と連携し、生涯学習プラザ等の地域の施設において、フレイル予防等の取組を実施し、市民の健康増進に寄与した。</p> <p>(課題) ②子どもの運動する機会づくりを行うために、親子で参加できるスポーツ教室を行う等、各種スポーツ団体と連携した取組を推進する必要がある。</p> <p>③地域スポーツの拠点として、より多くの市民が利用できるよう学校スポーツ施設の利用拡大に向けた取組が必要である。</p> <p>④地域において市民のライフステージに応じたスポーツや健康づくりを一層推進するためには、生涯学習プラザ等の地域の様々な施設を活用した取組を、幅広く進めていく必要がある。</p>
<b>【社会体育施設を拠点とする健康づくりの推進】</b>	<p>(目的) 地区体育館で実施する「健康づくり教室」事業などにより、地区体育館等の利用者数を増やし、市民の健康づくりや地域コミュニティづくりの促進を図る。</p> <p>(成果) ⑤子どもが運動を始めるきっかけとなるよう、スポーツ振興事業団と協力して、子ども向けがんばりカード(尼っ子がんばりカード)を本格実施した。また、令和2年度の臨時休館等の影響で落ち込んだ利用者数を回復させるため、感染症対策の徹底や新規受講者の獲得に向けた広報の充実(市報綴じ込みによる全戸配布)を行った。その結果、令和2年度に比べて利用者数が78,374人増加した。(目標指標D)</p> <p>(課題) ⑤尼崎市スポーツ推進計画に基づき、スポーツ振興事業団と一体となって、市民・利用者のニーズに沿った事業を展開するなど、記念公園や地区体育館において、スポーツや運動に親しむ環境づくりを推進していく必要がある。また、公共施設マネジメント基本方針に沿った施設改修に伴う休館が予定されているが、事前周知等を徹底し、利用者への影響を最小限にする必要がある。</p>
<b>【各種スポーツ大会を契機としたスポーツの推進】</b>	<p>(目的) 各種スポーツ大会を契機として、市民のスポーツへの関心や参加意欲を高めることにより、本市のスポーツの推進と競技力の向上を図る。</p> <p>(成果) ⑥「スポーツのまち尼崎」促進事業では、全国大会など7つの誘致大会の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、2大会が中止となり、5大会(うち1大会は無観客)を開催した。市民スポーツ祭やマスターズ選手権大会では、一部の種目では開催を中止したものの、感染症対策を講じながら開催したことにより、参加者数は4,917人増加した。(目標指標E)</p> <p>(課題) ⑥市民の関心が高い誘致大会やスポーツ大会の開催に向けた調整が必要である。</p>

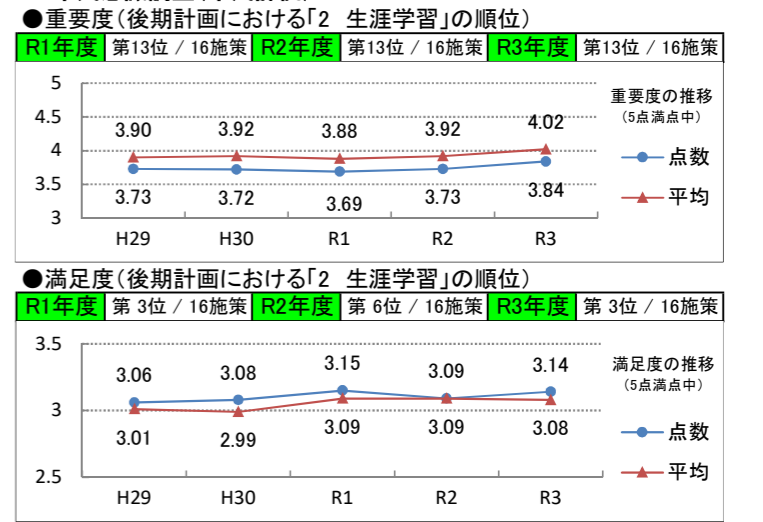
## 3 主要事業一覧

令和4年度 主要事業名	
1	立花体育館予防保全事業
2	
3	
4	
5	
令和3年度 主要事業名	
1	オリンピックを契機としたスポーツ推進事業
2	パラリンピック応援事業
3	
4	
5	
令和2年度 主要事業名	
1	サンシビック尼崎予防保全事業
2	(仮称)健康ふれあい体育館整備事業
3	オリンピックを契機としたスポーツ推進事業
4	パラリンピック応援事業
5	

令和4年度の取組	
<b>【市民のスポーツ実施率の向上に向けた取組の推進】</b>	<p>①東京オリンピックで高まった市民のスポーツへの機運を継続させるため、新型コロナウイルスの影響により中止となっていた市主催のスポーツイベントを実施するとともに、連携協定を締結したV2リーグ「クボタスピアーズ」と協力し、中学生対象のバレーボール教室や高等学校バレーボール部との交流試合等を実施する。</p>
<b>【ライフステージや体力等に応じた生涯スポーツの推進】</b>	<p>②親子スポーツ体験会など親子でスポーツに親しむ機会の増加を図るため、スポーツ推進委員、学校開放運営委員会及びスポーツクラブ21と連携した取組を推進する。</p> <p>③小・中・特別支援学校に対して、学校開放事業の更なる利用促進について協力を求めるとともに、新たに琴ノ浦高等学校のグラウンド開放を実施することにより利用者の増加を図る。</p> <p>④地域での幅広い年代層に応じたスポーツの推進・健康増進を図るため、健康支援や高齢者支援といった他施策において各地域で行う取組とも連携しつつ、スポーツ振興事業団と一体になって取り組んでいく。</p>
<b>【社会体育施設を拠点とする健康づくりの推進】</b>	<p>⑤記念公園や地区体育館等を拠点として、引き続きスポーツ振興事業団と連携しながら、市民の健康づくりを促進するとともに、スポーツや運動に親しむ機会の創出に取り組んでいく。</p> <p>⑥(仮称)健康ふれあい体育館の整備に向けた取組を行うほか、学校部活動の地域移行へ向けたモデル事業として、スポーツ振興事業団と協働し、市内中学校の運動部活動に対して指導補助員を派遣するなど、学校教育や地域コミュニティ、健康支援といった本市施策の推進における事業団との連携強化を図る。</p>
<b>【各種スポーツ大会を契機としたスポーツの推進】</b>	<p>⑦T.LEAGUE(卓球)、全日本実業団空手道選手権大会及び近畿6人制バレーボール大会を新規大会として誘致し、計10大会の誘致大会を行う。市民の関心が高い大会を誘致することにより、参加者数の増加を図る。</p>

主要事業の提案につながる項目

## 4 市民意識調査(市民評価)



## 6 評価結果

評価と取組方針
<p>・健康を意識した運動やスポーツを行っている市民の割合が減少傾向にある。コロナ禍において、市民がスポーツや運動に親しむことの重要性は一層高まっており、地域における好事例の横展開を図るなど、新たな機会を創出していく必要がある。</p> <p>・今後も、「がんばりカード」を活用した、子どもの運動習慣を身につけるための取組やフレイル予防に向けた取組など、ライフステージに応じた生涯スポーツを推進する。</p> <p>・スポーツを契機とした地域コミュニティの活性化に向けては、本市にゆかりのあるスポーツチームと幅広い分野で連携し、まちへの愛着を深める取組を推進していく。</p>